西岡七夏さん 空手国際大会で優勝

４月１８日から１９日にかけて、東京体育館で開催された**２０１５国際親善空手道選手権大会**で、西岡七夏さん（土佐山田町神母ノ木）が優勝しました（組手／８歳女子トーナメントの部）。

この大会は、国際空手道連盟極真会館総本部の主催で開催されたもので、全部門合わせて１，５００人の選手が参加した大規模な大会です。

西岡さんは６歳から極真会館高知香美道場で空手を始め、練習に励んできました。西岡さんは「これからも頑張りたい」と話していました。

べふ峡温泉でシカ肉食べてね

４月２９日、**シカニクの日**と題して、べふ峡温泉スプリングフェスタが一般社団法人香美市観光協会の主催で開催されました。

森のバイキングでは、喰うシカないバーガーと鹿串焼きが好評で、それぞれ用意した１５０人分が午前中に完売となりました。その他にも、シカドッグや鹿ステーキなど、いろいろなシカ肉グルメに舌鼓を打っていました。

また、いざなぎ流舞神楽の鑑賞や地元バンド・ティーバンズの演奏、木のボウリングや竹とんぼなどで遊ぶ『森の木遊び竹遊び』のコーナーなど、９００人あまりの人出でにぎわいました。

高知県消防大会表彰

４月２２日、県立県民体育館で**平成２７年度高知県消防大会**が開催されました。当日は、県内の消防関係者が集まり、消防に関連する各種表彰が行われました。香美市関係の表彰は表のとおりです

種　別	受章名	本部･分団	階　級	氏　名
消防庁長官表彰	永年勤続功労章	日ノ御子	分団長	千頭憲男
日本消防協会長表彰	精　績　章	日ノ御子	分団長	千頭憲男
	勤　続　章	神　池	分団長	竹田真悟
		片　地	副分団長	山脇伸一
		大　栃	副分団長	山崎　彰
		永　野	班　長	久保雅和
		猪野々	班　長	森本初雄
高知県知事表彰	永年勤続功労章	繁　藤	副分団長	岡部正彦
		岩　村	副分団長	和田　淳
		片　地	部　長	上村尚宏
		繁　藤	班　長	坂本吉長
		片　地	班　長	萩野順也
		繁　藤	団　員	杉本隆彦
		神　池	団　員	岡本益夫
		大　栃	団　員	中古味啓介
	配偶者功労感謝状	岩　村	－	岡部佐知
		楠　目	－	原　明美
		暁　霞	－	福留　史
		新　改	－	田村佳子
高知県消防協会長表彰	勤　続　章	植	部　長	井上文定
		楠　目	部　長	大石哲也
		神　池	部　長	山本秀次
		西　川	班　長	山中秀和
		明　治	班　長	石川純生
		片　地	班　長	南　善之
		西　川	団　員	大倉康正
		五王堂	団　員	小松無事生
	功　績　章	植	班　長	世ノ本貢
		植	団　員	宮本宗幸
		山　田	団　員	西村安史
		繁　藤	団　員	比与森巨吉
		繁　藤	団　員	福留岩夫
		岩　村	団　員	内村省三
		片　地	団　員	尾立昌夫
		片　地	団　員	小松直人
		明　治	団　員	上島邦男
		日ノ御子	団　員	日和佐干城
		大　栃	団　員	小松　剛
		大　栃	団　員	小松弘明
		大　栃	団　員	小松宏幸
		大　栃	団　員	杉浦俊孝
		大　栃	団　員	宗石高広
		大　栃	団　員	山中浩定

※階級等は申請時のもの、敬称略

平成２７年 春の叙勲 第２４回 危険業務従事者叙勲

平成２７年４月２９日に発令された、平成２７年春の叙勲と第２４回危険業務従事者叙勲の市内の受章者を紹介します。

春の叙勲 瑞宝小綬章（法務行政事務功労）

とくひろ よしたか
徳弘 至孝さん（７３歳）
土佐山田町東本町

徳弘さんは、昭和３５年、高知地方法務局に入局され、高松法務局人権擁護部長、大津地方法務局長等を歴任し、平成１２年８月に高知地方法務局長を最後に退職されました。また同年１２月から平成２２年１１月まで、大分県の日田公証役場で公証人を務められました。

法務局行政では、国の人権擁護活動の抜本的改革、登記等の窓口業務の迅速化に努められ、後進の職員には、「与えられた使命・職責を常に認識し、国民の方々が法務局に何を求めているかを考えて業務に取り組むこと」を特に指導されてきたそうです。

また、公証人時代には、遺言や任意後見など、公証制度普及のための講演を数多く行われたそうです。現在でも、人権擁護や公証制度についての講師をボランティアで引き受けられ、「仕事の中で培ってきた知識や経験を伝え、身近な危機管理に役立ててほしい」と話されていました。

春の叙勲 瑞宝双光章（更生保護功労）

まえだ たかあき
前田 隆明さん（７４歳）
土佐山田町楠目

前田さんは、昭和６３年１１月から保護司となり、現在も現役で活動を続けられています。旧土佐山田町役場に勤めていたとき、職場の先輩に誘われたことをきっかけに保護司となり、現在まで２６年７カ月の長きにわたり、１３人の保護観察対象者と向き合ってこられました。

対象者を指導していく上で、『誠実に向き合う』ということを最も大切にしてきたとのことで、「対象者の中には、約束を守らないなど一筋縄ではいかない人もいたが、信頼関係を築いていくために、誠意をもって接するよう心掛けてきた」と話されました。

更生した人から連絡をもらったり、真面目にやっているという話を聞くと、「大変だがやりがいのある仕事」と感じるそうです。保護司の定年まであと３年余りとなり、「最後まで一人ひとりと向き合っていきたい」と話されていました。

危険業務従事者叙勲 瑞宝単光章（矯正業務功労）

たきした かずお
瀧下 一夫さん（６３歳）
土佐山田町前山

瀧下さんは、昭和４５年３月に高知刑務所に採用され、平成１８年３月に退職されるまで、３６年１カ月にわたり、法務事務官としての職務を全うされました。

在職中の思い出として瀧下さんは、出所した方から手紙をもらったことをあげられました。手紙には、お世話になったお礼と近況報告が書かれてあったとのことで、「出所してからも真面目にやっていると知り、自分の仕事に対するやりがいと責任を感じた」と話されました。

また、夜勤業務など不規則な生活の中で、家族や同僚が心の支えになってくれたと話され、「体力的にも精神的にも厳しい職場だったが、家族をはじめ、まわりの方々の支えがあり、無事に勤めることができた」と感謝の言葉を述べられました。